

仕 様 書

1. 概要

- (1) 件 名 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所で使用するガス
- (2) 需要場所 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
(以下「研究所」という。) 茨城県つくば市松の里1
- (3) 業種及び用途 学術・研究

2. 供給期間（契約期間） 令和8年4月1日～令和9年3月31日

3. 仕様

受注者は以下に記載する事項及び仕様等を基に、安定的且つ恒常的に常時ガスの供給を行うこと。

- (1) ガスの種類 都市ガス13A（45MJ/m³）
- (2) 供給熱量 一般ガス導管事業者が定める小売託送供給約款（需要場所で払い出す託送供給）による。
- (3) 供給圧力 中圧・低圧
(引込みは中圧1本のみ。ガバナ室で低圧におとしている。)
- (4) 対象メーター

	型 式	号数・能力	メーター社番	圧 力	設置場所（図面参照）
①	NP	100	222-707-912	低圧	B-6 ガスガバナ室
②	NP	100	222-707-875	低圧	B-6 ガスガバナ室
③	RMB	1000	112-859-061	中圧	B-1 エネルギーセンター
④	NSP	65	579-697-324	低圧	B-1 エネルギーセンター
⑤	RMB	100	192-859-094	中圧	B-1 エネルギーセンター
⑥	RMB	200		中圧	B-1 エネルギーセンター

※⑥については、令和8年（2026年）2月中旬に新規メーターが1台設置される予定。

4. 予定使用量等

- (1) 予定最大時間流量 500m³/h
※「予定最大時間流量」とは、契約期間を通じて1時間当たりの最大の使用予定量をいい、原則としてこれを超えないものとする。
- (2) 予定年間ガス使用量 797,000m³
※「予定年間ガス使用量」とは、契約で定める1年間の予定月別使用量の合計量をいう。
- (3) 予定年間引取量 717,300m³
※「予定年間引取量」とは、契約で定める1年間の最低引取量をいう。
- (4) 予定月別使用量 別紙のとおり

5. 保安

- (1) 供給者は、ガス事業法等関係法令に則り、ガス消費機器の調査及び危険発生防止の安全周知の要否を判断するものとする。また、ガス工作物の保安責任はガス事業法に定めるところにより一般ガス導管事業者が負うものとする。
- (2) 保安責任分界点は、ガス工作物の末端バルブとし、詳細については発注者と供給者との間で協議の上、確認、決定するものとする。

6. 料金

- (1) 料金は、公的機関の発表する貿易統計（平成27年6月から同年8月の平均値）のガスの原料に関する価格に基づいて算定するものとする。
なお、石油石炭税等租税課金はLNGトン当たり 1,860 円、LPGトン当たり 1,860 円の場合のものとする。
- (2) ガス料金は、ガス小売事業者の原料費調整制度に準じ、調整を行うものとする。
なお、調整単位料金の算定と料金適用月及び原料価格算定月の関係は次のとおりとする。
N月を料金適用月とする調整単位料金は、(N-2)月を原料価格算定月とするトン当たり原料価格と基準トン当たり原料価格の差額に基づき算定する。ただし、1月を料金適用月とする調整単位料金は前年の11月、また、2月を料金適用月とする調整単位料金は前年の12月を原料価格算定月とするトン当たり原料価格と基準トン当たり原料価格の差額に基づき算定する。
また、入札価格の算定に当たっては、当該制度による調整は考慮しないこと。

7. その他

- (1) ガス供給における料金その他を計算する場合の単位及び端数処理は次のとおりとする。
 - ・基準単位料金の単位は、1立方メートルとし、その端数は、小数点第四位以下の端数は切捨てとする。
 - ・調整単位料金の単位は、1立方メートルとし、その端数は、小数点第四位以下の端数は切捨てとする。
 - ・料金その他の計算における合計金額の単位は、1円とし、その端数は、小数点以下を切り捨てる。
 - ・消費税額及び地方消費税額の単位は、1円とし、その端数は、小数点以下を切り捨てる。
- (2) ガス使用量確認方法
 - 1) 計量は原則として毎月末日とする。
 - 2) 前回の検針日及び今回の検針日における一般ガス導管事業者によるガスメーターの確認により、当該料金算定期間の使用量を算定する。
- (3) 本仕様書は業務内容等の概略を明記したものであり、本仕様書に明記無き事項やガス供給において協議しなければならない事項、突発的・不測事態等が発生した場合は、協議し解決するものとする。

令和 8 年度ガスマ月別予定使用量

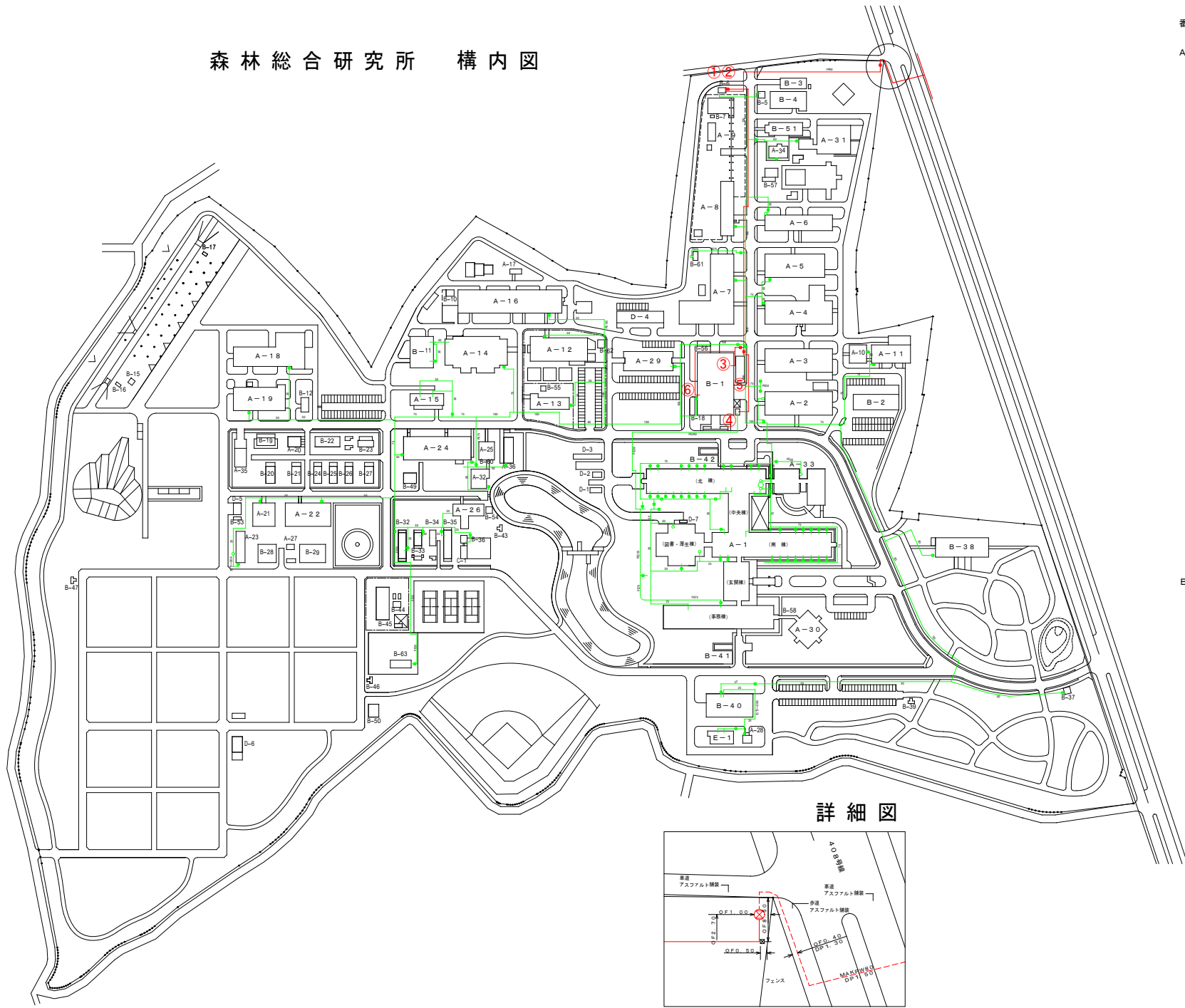
需給場所	茨城県つくば市松の里 1
供給ガス	都市ガス 1 3 A
契約最大流量	500m ³ /h
年間使用予定量	797,000m ³

使用月	使用量（中圧） m ³	使用量（低圧） m ³	使用量（合計） m ³
4 月	54,400	1,700	56,100
5 月	40,900	2,000	42,900
6 月	41,000	3,400	44,400
7 月	59,800	5,400	65,200
8 月	56,900	4,700	61,600
9 月	52,900	3,800	56,700
1 0 月	46,900	1,600	48,500
1 1 月	56,100	2,500	58,600
1 2 月	88,700	2,900	91,600
1 月	108,400	3,200	111,600
2 月	81,600	4,500	86,100
3 月	70,800	2,900	73,700
計	758,400	38,600	797,000

※ 中圧・・・・中圧導管からの引込によるガス使用量

※ 低圧・・・・ガバナ以降敷地内ガス管で供給するガス使用量

森林総合研究所 構内図



詳細図

番号	建物名称	番号	建物名称
A-1	研究本館	B-20	第1水耕硝子室
2	林産化学製造実験棟	21	第2水耕硝子室
3	合板集成材実験棟	22	造林木耕実験施設
4	木材特殊実験棟	23	生物工学隔離温室
5	木質構造第1実験棟	24	栄養生理温室
6	木質構造第2実験棟	25	無性繁殖温室
7	切削加工実験棟	26	造林温室
8	製材実験棟	27	樹木育成温室
9	北別棟書庫	28	さし木育苗第2施設
10	微量分析実験棟	29	さし木育苗第1施設
11	生物活性物質実験棟	32	昆虫温室
12	R1実験棟	33	昆虫網室
13	きのこ研究棟	34	森林病害媒介昆虫飼育施設
14	人工気象実験棟	35	樹病温室
15	温暖化影響実験棟	36	樹病水耕舎
16	防災特殊実験棟	37	表門守衛所
17	緑化工試料調整室	38	廃水処理棟
18	機械化第1特殊実験棟	39	屋外第1便所
19	機械化第2特殊実験棟	40	作業室及び倉庫
20	水耕測定準備室	41	第1自転車置場
21	ほ場管理棟(実験林室)	42	第2自転車置場
22	造林土じょう特殊実験棟	43	屋外第2便所
23	樹木園管理棟	44	さく井ポンプ室
24	保護特殊実験棟	45	井水浄化ポンプ室
25	きのこ栽培実験棟	46	屋外第3便所
26	昆虫機能解析実験棟	47	屋外第4便所
27	さし木育苗作業室	49	温室用純水製造室
28	防災備蓄倉庫	50	物置
29	生物工学研究棟	51	集成材試験建物
30	森林環境変動解析実験棟	53	第4自転車置場
31	木質耐震・快適性工学実験棟	54	生物試験用網室
32	きのこ遺伝資源開発棟	55	きのこ育種上家
33	生物多様性研究棟	56	第5自転車置場
34	環境影響測定棟	57	造音実験室
35	直交集成板長期挙動実験棟	58	渡廊下
36	木質バイオマス変換新技術研究棟	60	渡廊下
		61	観察室
B-1	エネルギーセンター	62	排水処理施設上家
2	車庫	63	実験住棟
3	特高開閉所		
4	特高変電所	C-1	樹根接種用上家
5	北門守衛所		
6	ガスガバナー室	D-1	ボンベ保管庫
7	貯木施設付風ポンプ室	2	非常用器具置場
10	水理実験ポンプ室	3	薬品庫
11	第1サブセンター	4	倉庫
12	第2サブセンター	5	農耕車輛庫
15	架空索機械運転計測室	6	堆肥舎
16	架空索張力検査室	7	厚生棟付風倉庫
17	主素調整室		
18	第3自転車置場	E-1	木造試験室
19	環境試料保管施設		